

# あけまして

# おめでとうございませす

神埼市長 松本茂幸



市民の皆さまには、希望に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、コロナで始まり、コロナで終わる年であったと、よくいわれます。

昨年3月13日に佐賀県内で1例目の新型コロナウイルス感染者の情報を受け、市は即日「神埼市新型コロナウイルス感

染症対策本部」を設置し、第1回会議を開催しました。会議を受けて、いち早く情報を周知すべく、防災行政無線による放送、防災メールの配信、市ホームページ掲載、市報掲載、チラシの全戸配布、さらに消防団による拡声器啓発活動をお願いし、実施しました。

その後は、国・県の動向を見ながら、庁内対応策をはじめ、国・県から打ち出された施策に沿った取り組みを実施してまいりました。このため、先月10日現在、市内の感染者は16人とどまっています。市民の皆さまのご理解とご協力によって、極力その発生を抑えることができましたものとお礼申し上げます。

新年を迎えて、今後市民の皆さまには、新型コロナウイルス感染症に対し、正しく恐れると同時に乗り越える勇氣と新たな発想をもって、希望の1年になることを切に祈念申し上げます。ワクチンの開発などによって国内外の、県内および市内の新型コロナウイルス感染症の災いが終息することを願うところであります。

話題は変わりますが、令和3年の執務は新庁舎にて始まります。庁舎からの展望は感無量であり、日の出の光景は最高で、やる気が沸き

上がってまいります。新庁舎は、昨年9月22日に落成完成し、23日から執務を開始しました。私をはじめ職員はすべて心機一転、市民協働の精神に立脚して『幸せつなごうかんざき みんなで支え合い、誇りと笑顔あふれるまちを目指して』第2次神埼市総合計画の目標実現に向かって邁進を決意しました。

その実現には、3本の矢を定めてのアプローチで取り組んでまいります。まず、第1は「安全安心」の矢、第2は「健康の増進と健康寿命の延伸」の矢、および第3は「地域の活性化」の矢であります。ここでは各々その主だったものを紹介させていただきます。

第1の矢の「安全安心」では、特に近年地球温暖化に伴う気象の変化に因る大雨（線状降水帯の発生と局地的ゲリラ豪雨など）、洪水、ひいては大災害をもたらしている現実を、身近に見聞きするところがあります。城原川流域で大雨（時間雨量70mm程度を超える）が降ったらと想像するだけで、心配でたまりません。天井川の城原川と田手川に囲まれた神埼市街地は、堤防の決壊がなくても野越から溢れた洪水で浸水してしまいます。特に市南部地域では、4メートル以上に達します。大丈夫だとの楽観主義では予想外の大雨（予想外ではなくなっている状況）に、とてつもない経験をすることになるのではと心配でたまりません。2階まで浸水し、家電製品や家財道具も使用できず、廃棄する羽目になり、移動手段である乗用車は動かず、かつ、大型農機具は使用できずに買い替えを余儀なくされるのではと想像がつきます。こんなことになれば、市は一大事です。

昨年、神埼町と千代田町のそれぞれの区長会から「神埼市における

治水対策および内水氾濫による浸水防止対策について」の要望書をいただいたところであり、多くの市民の皆さまが早急にダム建設、河川改修、内水排除ポンプの増強といった郷土の安全安心を望まれていることが分かります（20ページ参照）。

城原川ダム建設および河川改修工事をお願いしていますが、まだまだ時間がかかります。その間に洪水に対する事前防災の立場から、何としても南北避難道路（国道34号およびJ・R長崎本線の立体交差道路）の建設と自家用車による避難所の設置、農機具等の高台格納庫設置などを積極的に県および国に対し支援の要請を行っていきます。このことは「神崎市国土強靱化地域計画」にも掲載しており、必ずや実現を目指して、市議会議員および市民の代表者と共に強く働きかけてまいります。

次に、第2の矢である「健康の増進と健康寿命の延伸」は、市民の皆さまの「幸せ」を考える上で、絶対であります。そこで、私は、2〜3年以内に「何故、神崎市は生活習慣病患者が減ったの?」「どうして改善しているの?」などと思われる市にしたいのです。原因といわれる血糖値を下げられないかとかねがね思い続けていました…。

昨年秋には、驚きと感激でした。全面的協力支援者の出現で、5年越しの思いから神崎市ブランド品として開発された「神崎桑菱茶」であります。10月1日に発売を開始。製造された2,387箱（236キログラム）は22日で完売、多くの市民から予約注文があり、次回製造発売日（10月30日、935箱93キログラム）を待っていた状況でした。今回も7日間で完売してしまい、3回目の製造発売日の12月20日（930箱92キログラム）まで待つてもらおう状態でした。本当にありがたいことです。

飲まれた人から「便通がよくなった」「飲みやすい」「これからも飲み続けたい」などの意見をいただいたところですが「血糖値が下がりました」との声が聞くことができました。もっとしっかり取り

組まねばと思いました。皆さまの健康増進に役立ってくれることを期待しています。

以上のことから、今年は、菱組合および和桑部会の皆さまとともにより強く協働して、桑菱茶の原料である菱の実および桑の葉の採集増産を図り、購入を希望される市民の皆さまの需要に応えられるような供給体制の充実強化に取り組みます。

第3の矢である「地域の活性化」ですが、このことには経済的と精神的活性化があることを示してきましたが、経済的に市内一円で均しく活性化を図ることは、困難であります。市民一人ひとりが創造力をたくましくして、経済活動のプランを立て、その実現に挑戦していただかなくてはなりません。地域活性化への市民の志に対し、市は積極的な支援に取り組んでまいります。

市では、都市地域の意欲ある人材を積極的に受け入れることにより、市の活性化を推進し、また、市内への移住、定住を促進するため「神崎市地域おこし協力隊」の隊員募集を行いました。応募者11人の中から福岡県春日市出身の吉富友梨奈さんを選任し、1月から高取山公園コーデイネーターとして、お力をお借りすることになりました。今後、彼女の活動への市民の皆さまのご理解とご協力、ご支援を切にお願いし、想像を超えた地域活性化の効果を願うところです。

これからの神崎市づくりは役所だけでできるものではありません。すべて市民の皆さまの賛同と協力、一体となる協働が絶対です。私は昨年に倍してのご支援を頂いて、堅実に一步一步と歩を進めていく決意を新たにいたしました。よろしくお願いいたします。

今年一年が神崎市のますますの発展、市民の皆さまの招福、ご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

令和3年元旦

## 新年のご挨拶



神崎市議会  
議長 中野 均

新年あけましておめでとうございます。  
市民の皆さまにおかれましては、

希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

輝かしい令和3年の年頭に当たり、神崎市議会を代表しまして新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、市議会に対し深いご理解とご支援をいただき、お陰をもちまして議会活動に専念し、地域の振興をはじめ、市政の向上・充実などの公務に議会として精励することができましたことを、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が多発し、緊急事態宣言後一定の収束はあったものの、再び新規感染者が増加している状況であります。市民の皆さまにおかれましては、手洗い、マスクの着用、3密を避けるなど、新たな生活を過ごすことで、日常生活においては不安視されていることと拝察いたします。早く終息することを願うも

のであります。

また、昨年は大雨災害により農地・農作物等に甚大な被害が発生したことについて、近年の自然災害等に対し改めて防災意識について痛感したところでございます。

昨年9月には、神崎市の新庁舎が完成いたしました。新庁舎の建設に際しまして、議会としても特別委員会を設置し、様々な意見や提言を述べてきました。

市議会の議場におきましても、議会を身近に感じていただけるよう傍聴席と議席の高低差をなくし、傍聴席数も多く設置しております。

今後、これらの施設を有効に活用し、更に市民目線に立った、開かれた議会づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

神崎市議会では議員定数削減について、議会改革検討特別委員会の中で審議をまいりました。その結果、現在20人の定数を2人削減し定数18人にすることで結論を出したところでございます。

今後、市政に対し本当に市民が必要とするサービスが、効率的・効果的に提供されているのか、市民の代表として厳しい目で監視し、市民の皆さまの声を市政に届けるとともに、さらなる議会改革に努めていく所存であります。

最後になりますが、本年もより一層のご支援、ご協力をお願いしますとともに、市民の皆さまのご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶



神崎市教育委員会  
委員長 末次 利明

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、輝かしい令和3年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆さまには、日頃から本市の教育行政に深いご理解とご支援を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界的に流行するなど厳しい一年になりました。新しくやって来る令和3年が、新型コロナウイルス感染症を乗り越えて、明るく笑顔に満ちた年になるように願っています。

現代社会は少子高齢化やグローバル化、デジタル化、など加速度的に変化を遂げています。こうした中、教育はどうあるべきか、社会の急速な変化に対応する教育をより充実させるためには、学校だけでなく、学校・家庭・地域社会が相互に連携し、それぞれが適切に役割を果たすことが重要であると思っております。

学校教育において、令和2年は新型コロナウイルス感染症のために臨時休校や学校行事の中止や縮小等、例年通りの教育活動ができませんでした。しかし、そうした中でも、保護者や地域の皆さまのご協力をいただき、児童・生徒の皆さまは、勉強やスポーツ等に頑張ってくれました。

神崎市教育委員会といたしましても、新しい時代に向けて、「ICT利活用教育」や「英語教育」、「国際交流教育」等に取り組んでいます。特に、今年には「一人一台のタブレット」を全中学生と全小学5・6年生に導入します。その後、令和4年度までに全小学2・4年生に、令和5年度までには市内全小中学生に「一人一台のタブレット」を導入します。学校と市教育委員会が協議し、神崎市独自の導入の仕方を実施します。児童・生徒の学習に対する理解を助け、また、意欲・関心を持たせ、集中力を高める手立てとして導入します。また、「オンライン学習」の実施に向けても調査・研究を進めていきます。

「英語教育」や「国際交流教育」をはじめ「神崎・ふるさと学習」や「神崎市四か条の誓い」、「陰山メソッド教育」等、神崎市は「知（知育）・徳（徳育）・体（体育）」の調和の取れた人間性豊かな児童・生徒の育成を目指していきます。

学校教育のみならず社会教育においても、取り組むべき課題があります。特に、市民の皆さまに「生涯にわたる学習意欲を刺激する事業の推進や知的に洗練された市民の生活の場の提供」を行うために、中央公民館や脊振交流センター、さらに、今年オープン予定の千代田交流センター、新しくなった市立図書館等の活発な活用が必要と考えております。公民館等が主催する講座等を充実させ、新しい図書館がさらに多くの市民の皆さまに愛されるようにしていきたいと思っております。

教育委員会は、「子どもたちの未来のために」「市民の皆さまの生涯学習のために」本市教育の充実・発展に全力で取り組んでまいります。

皆さまの今年一年のご多幸を心からお祈りして、ご挨拶いたします。

# 今年の抱負

## 総務企画部

本年は、「第2次神崎市総合計画」4年目を迎え、引き続き市全体の均衡ある発展のための施策を総合的に展開し、目指すべき将来像である「幸せつなごう かんざき」の実現に向けたまちづくりを進めます。

人口減少対策では、住宅取得・家賃補助・リフォーム等への支援を継続するなど、移住・定住の促進を図り、人口減少の抑制に努めます。

また、市民協働のまちづくりを推進するため、市民団体等が自主的に行う公益的な活動を支援します。

施設整備では、昨年9月、新庁舎、神崎市中央交流センター、神崎情報館が完成し、さらなる市民サービスの向上や施設間の連携を図り、市民の皆さまの利便性の向上に努めます。また、着工中の脊振交流センター内の診療所が、今年2月に完成予定で、供用開始となります。さらに改修工事中の千代田交流センターは、今年3月の完成を目指して進めており、それぞれ、地域の拠点として、市民の皆さまに、有効活用していただき、地域の活性化に資する施設とし

て、適切な運用に努めます。

防災面では、最近、頻発する自然災害から市民の生命、財産を守るため、防災訓練、防災散歩の普及啓発、避難所運営など防災意識の向上と対策を図りながら、災害に強いまちづくりを進めます。交通安全の広報・啓発や消防体制の充実・強化を図り、市民の皆さまの安全安心の確保に努めます。

ふるさと納税では、新たな返礼品の開発や決済手段の拡充など、寄付者の利便性向上に努め、昨年12月から新たな取り組みとして、企業版ふるさと納税を始めるなど、引き続き、制度の趣旨に沿った運営を行い、財源の確保と地域資源の活用を推進します。また、地域資源として、好評いただいている「桑葉茶」関連商品の開発を行い、新たな神崎ブランドの創造を目指します。

財政面では、限りある財源を重点的・効果的に活用するとともに、市税などの自主財源の安定的な確保を図るため、引き続き、適正・公正な賦課・徴収に取り組み、健全な財政運営に努めます。

## 市民福祉部

昨年、市民の皆さまの生活に影響を及ぼした、新型コロナウイルスの感染症対策については、引き続き感染予防の適切な周知啓発を行い、全庁連携して必要な対策を講じます。

総合窓口は、市民の皆さまに最も近い窓口として、正確で迅速な対応に努めます。マイナンバーカードの普及を推進し、カード普及率の向上とコンビニ交付など利便性の向上を図ります。

健康増進については、「子育て世代包括支援センター」運営において、庁内連携のもと、妊娠準備期からの切れ目のない支援を行います。また、健康の基本である健康診断・食事・運動を推進し、市民の健康寿命の延伸を図ります。

国保は、引き続き健全な事業推進を行います。環境面では、ごみ・汚泥処理、火葬など、適切な環境衛生の推進に努めます。

地域福祉の推進として、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉など、対象者ごとの福祉サービスの充実を図ります。

具体的には、介護予防による健康寿命の延伸、障がい者福祉サービスの充実、就学前教育・保育、子育て世帯への支援サービスの充実を図ります。

また、福祉のさまざまな相談

活動を充実させ、コロナ禍の中で市民の皆さまが身近なところで気軽に利用できる相談窓口づくりに努めます。

地域で誰もが安心して暮らせる環境を充実させるため、地域の交流・ふれあいの促進を図り、地域の助け合い、支え合いの環境づくり、仕組みづくりを進めます。

## 産業建設部

農政水産部門では、農業・農村が有する国土・自然環境の保全、水源の涵養、良好な景観の形成など、多面的な機能が發揮されるよう圃場、農道、農業用水路や防災重点ため池の整備を行い農業経営の安定を図るとともに、新規就農者の支援・確保に努め農業振興を推進します。

また、近年の豪雨災害に対応するため農業用「幹線水路」の洪水調整機能の確保に努め被害の軽減を図ります。

林業部門では、引き続き、森林が持つ水源涵養や土砂災害防止など多面的機能の持続可能な森林づくりを推進します。

商工観光部門では、市のイメージアップにつながるSNSを活用した情報発信と王仁博士顕彰公園を拠点とした観光・交流に積極的に取り組みます。

また、地域の活性化のため定住促進を目指し、商工などの連携による商工業の発展と企業誘致の積極的な取り組みを図ります。

建設部門では、都市基盤である道路・河川・公園などの機能維持のための計画的に事業を実施します。また、神崎市を南北に縦断するアクセス道路（防災道路）の整備を引き続き進めます。また、老朽化している公営住宅（本堀団地）の建て替えのため設計計画の策定を行います。

城原川ダムについては、近年の気候変動の影響を踏まえた城原川の抜本的な治水対策のため、国・県と連携し、ダム事業をさらに推進するとともに、ダム周辺地域の振興に向けた検討を進めます。

下水道部門では、公共下水道および浄化槽の整備を行い快適な生活環境づくりに取り組みます。また、令和2年4月から公営企業会計を導入しており、経営状況の安定的で持続可能な下水道を推進します。

## 市民福祉の向上のため

職員一丸となって前進していきます。市民の皆さまの温かいご理解、ご協力をお願いいたします。

# 市議会一般質問に…残念!!

昨年の11月第6回神崎市議会

会定例会における一般質問

(12月2日から7日)の録画

が、ぶんぶんテレビで放映されました。これをご覧になられた多くの市民の皆さんはど

う思われたでしょうか。私は、

議会現場に当事者として参加しておりますが、今後の反省と参考にするために、録画放

映を努めて見ることにしています。

地方自治体は「住民の福祉の増進を図ることを基本とし

て、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割

を広く担う」(地方自治法第1条の2)と規定し、その役割(事務)の執行に当たっては、法律またはこれに基づき

政令によつて処理するものと規定しています。また、議会の議決を経ることとされてい

ます。

これらの規定から市は、法的に定められた範疇において、かつまた、事務事業にかかる予算について議会の審議と了解をい

ただいて事務の遂行にあたり、全職員は各々に課された職務の執行に当たっては市民の立場で、市民の目線で対応に務めてくれています。

一方、議会の会議または委員会においては「議員は、無礼の言葉を

使用し、又は他人の私生活にわたる言論をしてはならない」(地方自治法132条)と

規定されています。

私は、このような規定を踏まえながら、放送を見ると、議論

の中身もそうですが、納得のいかない、腹立たしさを覚えるものでした。一般の市民の皆さん

は、ぶんぶんテレビをご覧いただき、不名誉に思われたので

はないでしょうか。市民の方から「テレビ見よっばってん。何かい、コイが神崎市の議会かい」といった苦情というよりお叱りの電話をいただき、残念でした。

時に、他市町の公共工事発注にかかる不正等の新聞報道がなされている中で、神崎は問題もなく、感謝の気持ちでおります。しかし、わが神崎市議会一般質問にかかる記事として、『入札公平性で質疑、市は「適正」と主張』、『防災無線工事落札額、最低制限価格と一致』といった見出し記事の報道がなされ、残念でたまりません。

しかも、市政運営に携わる私は、常に、オープンにして公正を標榜しているのに、今回の質疑の疑念が「業者が最低制限価格を事前に聞きだしたのか、もしくは、職員が業者に最低制限価格を漏らしたのか、考えられるのはこの2つ」との断定的な議員の発言。

まつたく残念とともに、心穏やかならぬ思いが、ますますこみ上げてきます。常に、オープンにして公正を求めて訓示しているにもかかわらず、職員がかかわっているのであれば厳罰に処したい。また、そつでないとするれば職員の名誉を傷付けるような虚偽を、憶測でもつての議員発言であれば、逆に、神崎市の名誉に対して、どのように修復していただくのかとただしたい。

令和3年の始まりから、不愉快な「市長の部屋」ではありますが、疑念はいち早く解明し、市と市民がワンチームとなつて神崎市発展に向けた市民協働の活動展開ができることを祈念して閉じます。

(令和2年12月10日記)

神崎市長 松本 茂幸

## 市長交際費の公表

(令和2年11月分)

項目	件数	支出額(円)
弔慰	1	16,500
御祝	2	8,000
激励	0	0
会費	0	0
見舞い	0	0
その他	0	0
計	3	24,500

## 夜の市長室

どんなことでも構いません。皆さまの声をお聞かせください!

○今後の予定

とき	ところ
1月5日(火)	脊振支所
2月2日(火)	神崎市役所

18:00~20:00(1組30分程度)  
当日は来庁順です。

◎問い合わせ 総務課 秘書広報係 ☎37-0088

12月の千代田町保健センター開催分には、2組2人が来庁されました。

※お住まいの地区に関係なくお越しいただけます。

※荒天などの場合は、開催の有無をお問い合わせください。